

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 生物素材を用いた持続性エレクトロニクスの創成
2. 研究代表者： 古賀 大尚（大阪大学 産業科学研究所 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、持続生産可能な生物素材を原料として、電子機器に必要な絶縁体・半導体・導体を創り、全て生物素材由来の持続性エレクトロニクスの実現を目指す挑戦的な課題である。

フェーズ1では、ナノペーパー半導体の創出など顕著な成果が数多く得られており、オールセルロース・エレクトロニクスの実現性を示したことは大いに評価できる。フェーズ2は、フェーズ1の成果である基盤技術の深化・発展に加え、セルロース以外の生物素材にも展開する挑戦的な計画となっており、先鋭的なデバイス素子機能の開発やその用途開拓に大いに期待する。

以上